

貨幣の話

私たちは「貨幣社会」に暮らしています。貨幣社会とはつまり、「お金」を使って生活をしている社会のことです。昔、私たちの祖先は「物々交換」で生活していました。しかし、物々交換は**1.明確な価値の尺度がない**、**2.自分が欲しい物と交換してくれる人がいるとは限らない**、**3.「物」は保管や持ち運びが大変**、などといったデメリットが多く、きつと大変だったと思います。そこで誕生したのが「お金」、つまり「貨幣」です。お金には大きく分けて、3つの機能があります。

1.交換(支払い)の手段

特定の「物」と「物」を交換しなくても、「物」と「お金」を交換すれば、必要な物が手に入れられるようになりました。自分が欲しい物を持っていない人でも「お金」を交換すれば、そのお金で自分が欲しい物を別の人から買えるようになったのでとても便利です。

2.価値の尺度

それぞれの「物」に「お金に換算するといくら」という価値の尺度をつけたことで、全く違うもの同士でも同じ価値の尺度で比べることができるようになりました。りんごと魚を交換しようとしても、「お金」がなければいくつつずつ交換していか分かりませんが、「りんご100円」、「魚200円」と決まっていれば、いくつつずつ交換すればいいか、一目瞭然です。

3.価値の蓄積・保存

せっかく釣った魚も、つくった服も時間がたつてしまえば、どんどん腐っていくし、汚れていきます。欲しい物と交換しようと思ったときには、すっかり価値のない物になってしまうこともあります。これをお金に換えておけば、お金自体に価値があるので、価値をそのまま蓄積・保存することができます。

当たり前のようにある「お金」(貨幣)ですが、私たちの生活にとっても大きな便利さを提供してくれています。いまでは、「現金」以外にも「電子マネー」といわれるような新たな「お金」も登場してきました。お金と上手に付き合うことは、生きていくうえでとても大切なことです。

物価と景気の話

新聞やテレビでは、毎日、経済の話題が取り上げられています。そのなかでも「物価・景気」の話はよく取り上げられていると思います。これらはそれぞれ別のものですが、非常に密接に関連しています。

物価は景気に大きく左右されます。景気が悪くなると、家庭の収入が減り、物やサービスはあまり売れなくなっていきます。そうすると、安くしなければみんな買ってくれなくなるため、物価は下がっていきます。逆に景気がよくなれば、物やサービスはたくさん売れていきます。多少高くても買ってくれる人がいるので、物価は上がっていきます。

物価が上がるということは、私たちにとっては買いたい物が高くなっていくので、あまり嬉しいことではないように思えるかもしれません。しかし、物価が上がるということは、景気がいい、経済が発展している証拠であり、収入が増えやすいともいえます。

しかし平成20年(2008年)には、原油価格の高騰を受け、一部の物の価格が急激に上がるということも起こりました。それらの物の生産や輸送に、原油が原料になっているガソリン、軽油などが不可欠だったからです。このような価格の急激な上昇は決して喜ばしいものではありません。物価が上がったり下がったりしたとき、その理由や社会的・経済的背景についてもよく理解しておく必要があるでしょう。

円高・円安の話

A: 1ドル=100円とB: 1ドル=90円どっちが円安?と聞かれて即答できない、もしくはBと答えてしまう人は多いと思います。100円より90円のほうが安いのでは!?と思われる方も多いかもしれませんが、正解はAです。

「円安」(円が安い)というのは、他の通貨(ドルやユーロなど)に比べて円の価値が下がっている、ということです。おもちゃの例で考えてみましょう。

アメリカで10ドルのおもちゃを買おうと思います。1ドル90円のときに買えば、900円で買うことができます。しかし、1ドル100円のときたと、1,000円必要です。同じものを買うのに、100円余計にかかってしまいました。つまり、ドルに対して円の価値が下がった、ということです。

円の価値が上がる(円高になる)とどうなるでしょう?一般的に日本から海外に物やサービスを輸出している企業は悪影響を受ける、といえます。今回は車を例にとってみましょう。

日本の会社がアメリカで車を売り、1万ドル儲けたとします。1ドル100円のとときに売られていれば、100万円の儲けになります。しかし1ドル90円のときたと90万円の儲けにしかなりません。同じ1万ドル儲けたのに、10万円分も儲けに差がでてしまいました。

円高・円安、それぞれにメリット・デメリットがありますので、一概にどちらがいいとはいえません。しかし、上記のように円高・円安によって企業、さらには経済・社会全体も大きく影響を受けます。ぜひ注意して、新聞やテレビなどで為替の動きをみてください。

防げ! 金融犯罪

いま、金融犯罪が非常に増加し、さらに複雑化しています。

「振り込め詐欺」は、テレビや新聞でもよく取り上げられています。「振り込め詐欺」には、いわゆる「オレオレ詐欺」のほかに「架空請求詐欺」、「融資保証金詐欺」、「還付金等詐欺」があります。多くの場合は、銀行振込で送金させますが、銀行の窓口やATMでの警戒が厳しくなったことから、最近では郵便で現金を送らせる、あるいは犯人グループが直接取りにくるなど、手口が多様化してきています。

振り込め詐欺以外にも金融犯罪は多く発生しています。若い人が被害者になったり、場合によっては加害者になったりすることもあります。たとえば、キャッシュカードの偽造は、ロッカーに財布を入れるなど、目を離したすきに「スキマー」という機械でキャッシュカードの磁気情報を盗み取られ、そのデータを元にカードが偽造されます。さらに、暗証番号が盗まれる(簡単に推測される)ことにより、偽造されたキャッシュカードで預金が引き出されてしまいます。

インターネットによる銀行振込など、インターネット・バンキングの普及により急増しているのが、スパイウェア、フィッシングによる犯罪です。電子メールの添付ファイルやCD-ROMを通じてスパイウェアというソフトウェアをインストールさせる、あるいは金融機関にそっくりのサイトをつくって誘導し、そこにインターネット・バンキングのIDやパスワードを入力させることにより、情報を盗む犯罪が増えています。情報の管理には本当に気を付けてください。

さらに最近問題になっているのは銀行口座の売買です。「振り込め詐欺」などの犯罪のために使われる銀行口座が、高額で売買されていることがあります。他人の口座を「買う」こと、「使う」ことはもちろん犯罪ですが、自分の口座を他人に「売る」ことや「譲る」ことも犯罪であり、罰則が設けられています。意外とそのことを知らず、簡単にお金をもらえるアルバイト感覚で、銀行で口座をつくり、犯罪集団に売ってしまう若い人が増えています。犯罪に加担している、加害者になってしまいますので、絶対に口座の売買には関わらないようにしましょう。

金融犯罪は他にも多数あり、その手口は多様化・複雑化してきています。下記のサイトでしっかりと金融犯罪の手口と対策に関する知識を身に付けてください。

<金融犯罪の番犬「BANK-KEN」の金融犯罪にご用心!>

<http://www.zenginkyo.or.jp/topic/hanzai/index.html>